

250型真空脱泡セパレートミキスタ

100V仕様

取扱説明書

お願い

必ず本取扱説明書をお読み下さい。
なお、本取り使い説明書は、大切に保管してください

製造番号				
------	--	--	--	--

ミキスタ工業株式会社

仕 様 書

ミキスタ工業株式会社

1	機 種 名	250型真空脱泡セパレートミキスタ	
2	電 源	単相 100V	
3	本体ミキスタ	ミキサーモーター	三相200V 4P 200W 1.2A ハイボイドギヤー 1/30
		缶回転数	30~80rpm インバータ制御 インバータ周波数と同数時を表示
		混合缶	材料缶
		フープ(缶固定枠)	Φ229フープ
		パドル	250型山型パドルΦ229(4L)
		制御	運転タイマー 15分ゼンマイ式
		ミキサー反転時間	30秒毎自動反転
		回転方向選択スイッチ	自動反転 or 一方向 30秒毎自動反転or手動運転
		インバータ(新タイプ)	単相100V入力 三相200V出力
		コンセント	真空ポンプ用 2P
		真空ホース	真空ソケットカプラー付
		寸 法	(L)405×(W)400×(H)320
		重 量	20kg
		4	真空ポンプ
排気量	20L/min (50Hz)		
到達圧力	6.7×10 ⁻¹ Pa		
オイルミストトラップ	OMS-050		
ホースジョイント	真空プラグカプラー付		
寸 法	(L)300×(W)160×(H)230		
重 量	15kg		
5	真空タンク	タンク	タンク内寸法 Φ360×360H アルミ製 透明天板アクリル製 パッキン破壊防止機構付き
		タンクパッキン	レストンゴム製
		リークバルブ	ボールバルブ
		バルブフィルター	粉塵混入防止用
		タンク内到達圧力	500Pa以下(空気)
		寸 法	(L)420×(W)380×(H)450
		重 量	10kg
6	キャリーベース	本体ミキスタ・真空ポンプ・真空タンク設置用ベース 移動時用ハンドル パドル格納 Φ38キャスター4個	
		寸 法	(L)615×(W)420×(H)70
		重 量	3kg
付属品①	ポンプオイル	SMR-100	
付属品②	T型レンチ	13mmBOXレンチ	
付属品③	タンクパッキン	レストンゴム 1個	



1. 据 付

設置場所は粉塵及び湿気の少ない場所に設置し、点検や清掃などが容易な場所を選んで下さい。

2. 運転準備及び取り扱いの注意

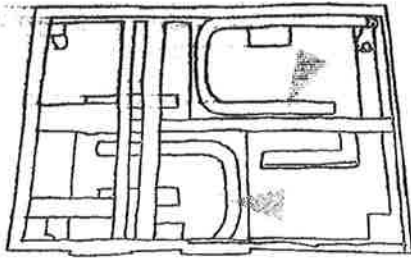
- ① 本機は防爆構造ではありませんので引火性の溶媒などを使用する場所では、
運転環境に充分御注意ください。 法規に準じてください。
防爆指定地域では、ご使用はできません。
- ② 本機は混合缶が回転しますので、回転時は手など触れない様に御注意して下さい。
また、テスト時にフープ(缶固定枠)を空回しの状態で使用しますと、パッチングが開き、
破損させる場合があります。
必ず「材料缶」をフープに、セットして運転をしてください。
- ③ アースを必ず設置してください。
- ④ 本機の電源は、単相100V以外は使用できません。
- ⑤ 真空タンク天板はアクリル製なので、ヒビ・傷など発生した場合はご使用できません。
- ⑥ 操作盤を開放する際は、必ず電源を遮断されている事を確認の上開放してください。
- ⑦ 真空タンクを長時間、真空が保持された状態にしないでください。
ポンプ内部には、オイルの逆流防止弁がありますが、真空圧が低い状態が続くと
真空タンク内に、オイルが逆流する場合があります。
- ⑧ 真空ポンプの暖気運転は、必ず真空タンクを被せてリークバルブを締めて行います。
真空ポンプを大気圧で長時間運転しますと、過負荷運転でポンプが停止になります。
- ⑨ インバータは、外部設定モードに設定しています。
ダイヤル以外は、操作しないで下さい。

設定を戻すには、付属のインバータ取扱説明書を参照して外部設定運転に戻す為に、

ご不明時は、当社まで御連絡頂ければ設定を御説明申し上げます。

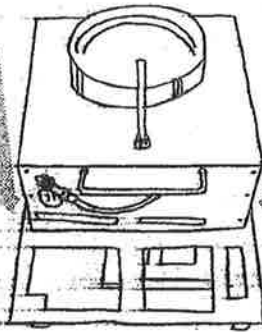
■組み立て

1



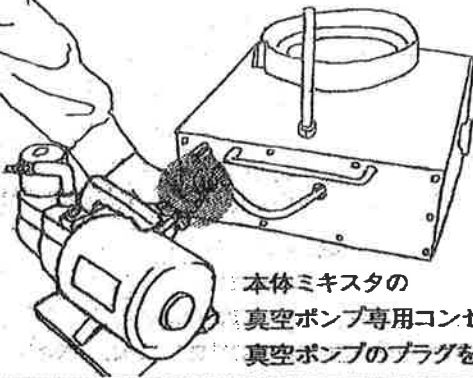
キャリアベースより
パドルを 抜き取る

2



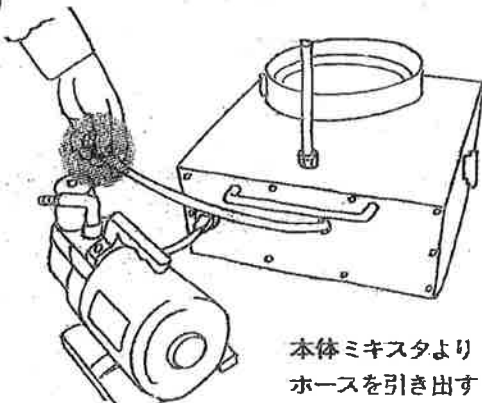
キャリアベースに
本体ミキスタを置く

3



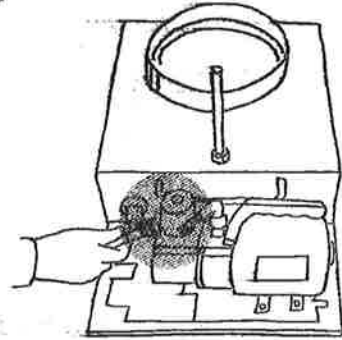
本体ミキスタの
真空ポンプ専用コンセントに
真空ポンプのプラグを挿し込む

4



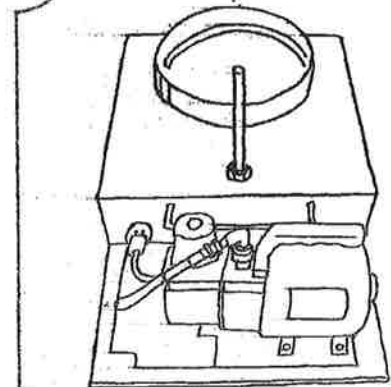
本体ミキスタより
ホースを引き出す

5

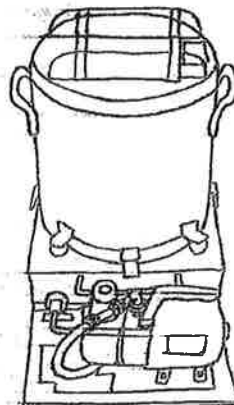


真空ポンプのカプラーに
ホースのカプラーを入れる
(カプラーの先端を引くと)
取り外しが出来ます

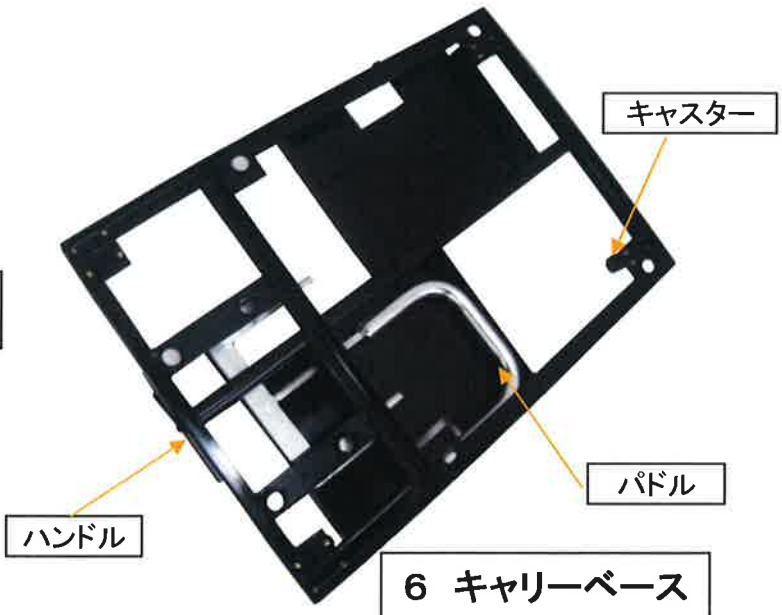
6



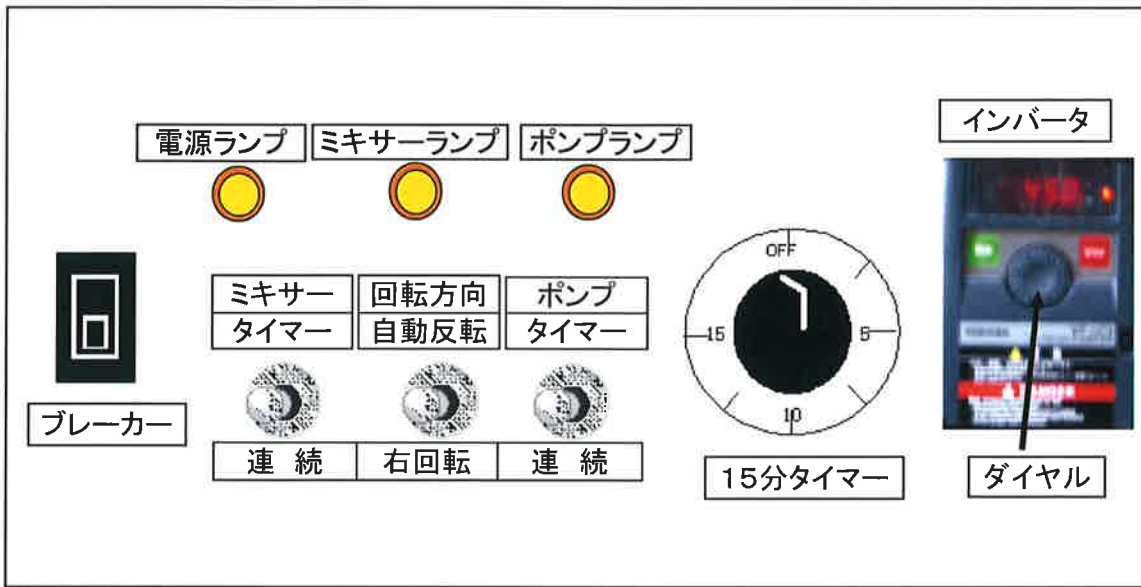
7



図解の説明



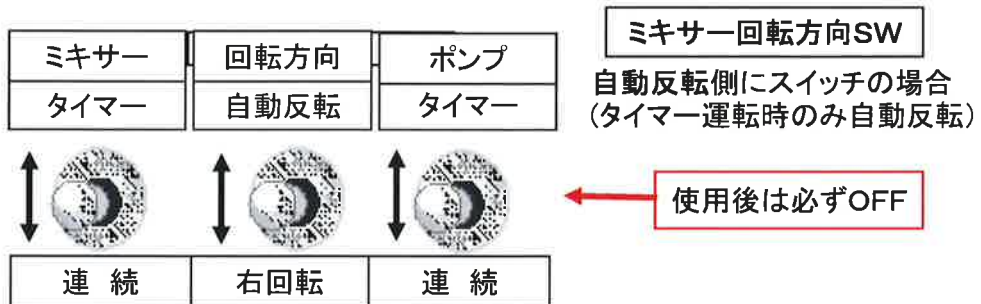
操作盤の説明



インバータの説明



スイッチの説明



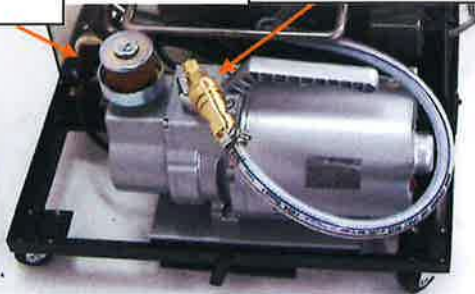
15分ゼンマイタイマー
つまみを右に回して、時間を合わせます

セッティングの説明



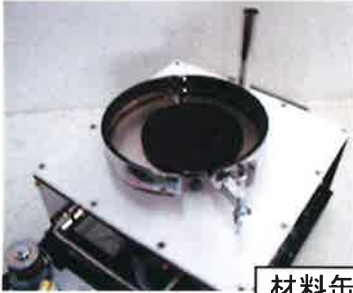
コンセントに
コードプラグ
を

ポンプのカプラーに
ホースをジョイント



準備完了

真空混合操作方法 材料缶とパドルのセット方法



材料缶をフープに入れる



パッチング鍵を締める



パドルを缶に挿入



* 写真の材料は参考品です



セット完了

操作方法

タイマー運転の場合

1. 電源ランプが点灯している事を確認

2. 回転方向スイッチを「自動」側にあわせます。

3. 15分タイマーを 任意時間まで回します。推奨12分

4. ミキサースイッチを「タイマー」側に合わせます。

ミキサー スタート 予備攪拌をします。



回転数は
45回転



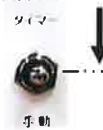
参考写真

材料缶の上部壁やパドル軸の周辺をヘラにて掻き落とします。

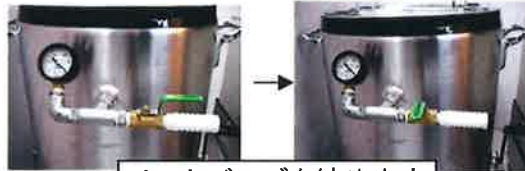
1~2分程 予備攪拌を行います (予備攪拌しない場合は削除)

5. ミキサースイッチを中央「OFF」にします。

ミキサー 停止 (タイマーはゼンマイ式なので作動しています)



6. 真空タンクを被せます。



リークバルブを締めます

7. ポンプ・ミキサースイッチを「タイマー」側にします。

真空作業・ミキサー スタート



参考写真

減圧初期

材料が上昇します



10分後

参考写真

材料が下がり気泡が大きくなります

途中で材料が溢れそうな場合のアドバイス

(季節の変わり目に材料温度と大気温度に大きな差や、湿度が多い場合に生じる)

通常で溢れそうな場合は、リークバルブを開け大気を送ると大気圧で下がります。間隔は、数秒単位の繰り返しです。



自動反転にしますと
休息があり上部材料が
あると溢れます。



材料が下がったら
元の数値にします

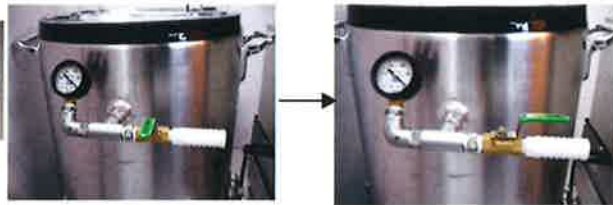
一方向は、このケースに限らず
通常操作時も真空後2分位で行うと
容器の内面を損傷防止にも役立ちます。

8. タイマー OFF

ポンプ・ミキサー 停止



9. 真空タンクのリークバルブを開けます。



10. 真空タンクを外します。



真空計の値が戻ってから真空タンクを
外してください。



11. スイッチ類を「OFF」の位置にして下さい。



11. フープよりパドルを抜き、材料缶取り出してください。



パドルを、一気に材料缶から引き抜くときに抜いて下さい。
一気に抜くとパドルの空洞から空気が混入して
気泡が中に残る場合があります。



パドルを抜いた状態です。



材料缶の取手にて材料缶を固い面に
突いて表面の空洞を埋めます。

作業終了

手動運転の操作方法

- 1 セッティングは、タイマー運転操作と同様です。
- 2 ポンプ・ミキサースイッチは、手動で直ぐに運転します。
- 3 回転方向スイッチは、一方向のみの可能です。



操作方法 終了

保 守

真空ポンプ



オイル交換 1年毎の交換

オイルミストを外してオイルを入れます。



ドレーンコックを外して、オイルを出します。



オイルレベルは、半量が適量です。

オイルミストのエLEMENT交換



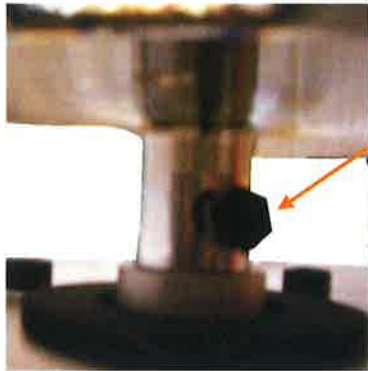
交換時機	2~3年
ELEMENTの清掃	6ヶ月~1年
	乾いた布等で吸い込ませる。 エアブラシで、乾燥させる。



ELEMENT

点 検

フープの点検



ボルトの緩み



トッププレートの清掃



フープを取り外します

真空タンク



アクリルの亀裂は交換
使用は出来ません



タンクパッキン破損防止 アジャスタ
トッププレートとの隙間は1mmで調整します。



タンクパッキン
破損・亀裂は交換

ポンプ配管の名称とメンテナンス

カプラー ソケット



カプラー プラグ



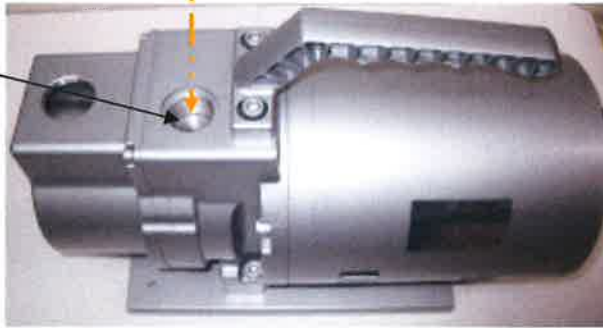
B型 吸気管



逆流防止弁管



吸気口



吸気口の網フィルターの点検



真空タンク内の部品やトッププレート上の粉塵等がポンプにより吸い込まれ、配管部品や特にポンプの吸気口の網に付着して目詰まりで、真空のスピードが遅くなりポンプに過負荷を与えて故障の要因になりますから、排気速度が通常より遅くタンクパッキンの損傷もなく更にポンプオイルも正常でしたら、詰まりが大きな要因と考慮して、分解・清掃をしてください。

その他の配管部品の点検

逆流防止弁管



ごみの付着があった場合は清掃します。



黒いゴムが逆支弁です。外れている場合は再度

カプラー プラグ



硬いもので、押し下がれば正常です。下がらない場合や戻らない場合は交換です。

カプラー ソケット



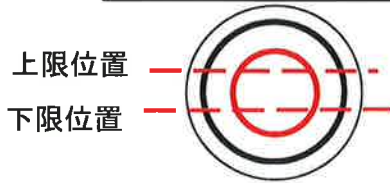
手前に引いて



下を硬いもので押して

オイル量の適量判断について

オイルレベルゲージ

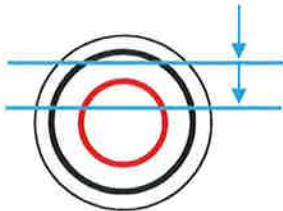


赤丸範囲内に入る事が条件
しかし、空気中の水分がオイルに
混ざり量が増える事が予想される
ので、丸上部に空洞がある位が、
良いと思います。

オイルは、別紙添付ポンプ取扱説明書中より抜粋した部分項目も参考にして下さい。

オイルレベルゲージが曇ったりして、オイル量の適量判断が分からない場合の対処方法

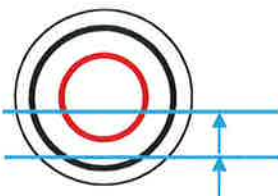
オイル量が多い場合
水平にしてからポンプ側を上げます。



オイル量が下がりオイルレベルが
確認できます。

オイル量が少ない場合
水平にしてからモーター側を上げます。

オイル量が上がりオイルレベルが
確認できます。



オイルの劣化 判断基準

オイルの劣化は、通常は水分による酸化です。オイルの色が茶系色の場合と材料中に含まれているガス系溶剤系による劣化状態で主に乳化色系と思います。
水分は、オイルより比重が重いのでポンプ下部に溜まるので、ドレン口を外しオイルより先に水(透明色)が出ますから色が変わったらドレン口を閉めます。
水以外は、分離しませんから当初は材料の種類に関係なく6ヶ月毎の交換をお勧めします。
添付取扱説明書の該当項目を参考して下さい。

真空タンクパッキンの破損

タンクパッキンが破損しますと、ポンプで吸引しても真空計の針が大気圧の位置から下がりにませんので、判断は容易に行えます。